

第 1210 回放送分『小児疾患』2 回目

ゲスト：櫛木大祐ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「小児疾患」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 櫛木大祐（はぜき だいすけ）ドクターです。
櫛木さん、よろしくお願いいたします。

櫛木大祐Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は心臓の異常な音、心雑音についてお話しいただきました。
「心雑音がある」と言われると、驚かれる親御さんも多いと思いますが、
重大な病気が隠れていることは稀で、ほとんどは問題ないとのことでした。
念のために精密検査をすることが多いですが、
必要以上に心配しなくてもいいというお話でした。
今日は何についてお話しいただけますか。

櫛木大祐Dr.

今日は子どもの胸痛、胸の痛みについてお伝えいたします。
大人の場合は心臓の病気などを連想しやすいですが、
子どもの場合はほとんどそういうことはないです。
よくあるのは筋肉や肋骨の骨の周りの痛み、
あとは成長に伴う一時的な痛み、
あるいは胃液の逆流が一時的に起こる、胸焼けのようなケースもあります。
いずれも重大な病気であることは稀です。

二見いすず

それを聞くと安心しますね。お子さんは体格が小さいので、
自分で「ここが痛い」と指差した部分がお腹だったりすることもありそうですね。

櫛木大祐Dr.

それもあると思います。実際お腹が痛いというケースもあります。

二見いすず

ちなみに胸の痛みというのは、一時的なものなのでしょうか？

櫛木大祐Dr.

そうですね。一時的なもので済むことが、まさに軽症で
心配のないことの証拠でもあります。

しかしどんどん強まったり、痛みが持続したり、
運動したらさらに強くなる場合は、注意が必要です。

二見いすず

逆に本当に深刻なケース、救急車を呼んだほうがいいのは、
どのような症状のときなのでしょう？

櫛木大祐Dr.

一般的には気を失っているような状態とか、
息苦しさも一緒に伴っているときなどです。
あとは動悸がするということがあれば、治療が必要な病気の可能性もあります。

二見いすず

万一、心臓の病気が隠れていた場合は、
痛みの種類などは変わってくるのでしょうか？

櫛木大祐Dr.

そうですね。痛みの質としては狭い範囲ではなくて、
結構大きく、胸全体が痛いと感じます。
またその痛みも、ピリピリと刺すような痛みではなくて、重い感じです。

二見いすず

重いと言いますと？

櫛木大祐Dr.

全体をかなり強い力で押されているような感じです。

二見いすず

そうなんですね。お子さん、特に幼児期ですと、
自分の症状を的確に言葉にすることが難しいので、
そのあたりは心配になりますね。

櫛木大祐Dr.

そうですね。胸が痛いと言ってくる子どもは少なくはないですが、
私自身の経験でいいますと、本当に重大な異常は診たことはありません。
繰り返しになりますが、そういうケースは稀なので、
そこまで心配なさらなくていいですよとお伝えしたいです。

二見いすず

よくわかりました。今月は小児疾患についてお送りしています。
お話は鹿児島県医師会 櫛木大祐ドクターでした。

榎木さん、ありがとうございました。

榎木大祐Dr.

ありがとうございました。